

私の留学経験

李 笑然

私は李笑然と申します。高校卒業2008年4月に亜細亜友之会日本語学校に入学し日本語を学びました。

来日当初は、一番簡単なひらがな、カタカナも覚え切れませんでした。二年間の勉強を通して、日本語能力一級試験で326点の成績を獲得しました。2009年12月には日本女子大学人間社会学部現代社会学科に進学し、2010年4月から新しい大学生活を始めました。語学学校で自分の勉強生活を簡単に紹介させていただきます。

私の母校である亜細亜友之会日本学校は他の日本語学校を比べて学習雰囲気が高いという印象でした。学生の出席率はずっと日本一を保持しています。主に中国留学生を受け入れている学校で、進学のための日本語教育を行っています。クラス分けテストでクラス編成をしているので学生の自覚性と積極性が生かされています。一年目の初級日本語授業は簡単でわかりやすく、会話能力がよく鍛えられます。二年目からは主に日本語能力試験、留学生試験、進学試験の準備の訓練を行います。先生は学生のレベルに沿った授業を行い、夏休み期間からは進学準備をします。学生には学生個人個人の適した大学、大学院を推薦したり、一連の専門的な訓練を行ったりして学校の教育システムの通り進行します。

亜細亜友之会日本語学校の先生は皆親切かつ熱心で、授業においては学習方法を指摘してくれたり、学生のニーズに合わせて適切に授業方法を調整したりして、学生の日本語能力を全面的に伸ばすよう工夫しています。先生の授業通り勉強を進めれば、皆様が満足できる成績を挙げられると思います。

ほかに、生活面においては、特にここで指摘しなければならない丁先生のご存在です。彼女は学生から信頼され尊重されている学校のシンボルと言える先生です。丁先生は学生のために真心で学生と接し、先生は、私達の生活面だけではなく普段の学習面から進学までのあらゆる面で、学生が悩んだり困ったりしたことがあれば、安心して相談できる存在です。彼女は責任感が非常に強く、学生のことだったら自分のことのように聞いてくれます。親から遠く離れた留学生にとっては、彼女は親のような存在で、時々厳しいですが、本当に学生のために考えてくれます。

私達が遠くにある家族、故郷を離れて、日本でアルバイトをしたりするという事は、美しい近い将来のためであり、最も大事なことは目標を立て、それに向けて努力することです。来日したばかりの時は、日本語レベルが低く、クラス分けテストでは一番下のFクラスに編成されました。当時は日本そして日本語に対し理解が不十分だったので、どこから始めればよいかわからないので、急いで目標を立てることはしませんでした。しかし、同じクラスで成績上位者に入ることを目標にしました。また、同じ基礎を持った学生の中では成績を上位に上げることを最低の基準にしてみました。よって、一ヶ月満たないうちに上のクラスに上がり、更に成績を上げるよう努力しながら卒業まで続き、気がついたら学校で最上位のクラスに上がりました。最後のテストではよい成績をおさめることができました。個人的な経験からすると、よい成績をおさめるために一番大切なことは、忍耐強く努力するしかないと思います。目前の楽しいことだけではなく将来のことを考えるべきです。如何なることがあっても、いつも勉強を第一にしなければなりません。青春は我々の宝物で、夏の花の美しく咲くこの時期に、不断の努力をすることを皆さんに望んでいます。

亜細亜友之会日本語学校は、奨学金を設けており、学習態度がよく、出席率もよく、成績優秀な学生には経費面で応援しています。毎年学生は等級別の奨学金をもらっています。語学学校に通った期間に、私は日本文部科学省の年57.6万の奨学金をもらいました。留学生にとって、奨学金は大きく大事な経費の源です。奨学金を受ければ、アルバイトする時間を短縮し、勉強時間を延ばして精力的に勉強ができ、自分が望んだ大学に進学することができるでしょう。

以上、私の二年間における留学生活の経験と感想ですが、皆さんの参考になれば幸いです。

最後に、皆さんが楽しい留学生活を送りながら、自慢できる成績をおさめられることを願っております。